

令和8年度

城ノ内中等教育学校（前期課程）
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 生徒が主体的・協働的に学び、生徒の個性や創造性を伸ばす授業の実践
- 科学的な思考力・表現力・読解力を育む授業の実践

校長

西浦 利幸

学力向上推進員

仁木 将之

【各校の取組状況の把握について】

○授業参観の報告や学力推移調査、学校評価アンケート等に基づき、様々な機会を捉え、取組状況の把握・検証・共有を行う。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能については、習得率も高く、与えられた課題にもまじめに取り組むことのできる生徒が多い。 ●内容が難しくなるにつれて自力では理解できない生徒が増え、学年を追うごとに上位層との差が固定化・拡大している。	・基礎的な単語や公式を「わからないまま」にせず、ICT教材や質問等を通じて自ら学び直しができる。 ・宿題や小テストの結果を振り返り、自らの「つまずき」の箇所を具体的に把握して授業に臨むことができる。	・定期考査の結果を分析し、個別の習熟度に応じた補習やICTにより課題を提示するなど、「つまずき」の早期発見と個別支援に努める。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○表現力について「しっかり話せるようになった」と成長を実感し、「1問1問、考え抜く」ことを意識し粘り強く思考することができる生徒が多い。 ●「誰が見ても考え方がわかるように解答する」ことを日頃から心がけている生徒が少なく、根拠を伴って論理的に説明することを苦手とする生徒が多い。	・正答を導くだけでなく、図表や言葉を用いて「解法のプロセス」を他者にわかりやすく表現できる。 ・対話的な学びを通じ、自分とは異なる解法や意見を根拠とともに比較検討し、自らの考えを再構成できる。	・解法の根拠を説明し合う場面を意図的に設定する。 ・資料(グラフ・表)を根拠として自らの主張を記述させる課題を設定し、採点基準を生徒と共有することで記述の質を高める。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○多くの生徒が「分からない時に学び方を工夫する」意識を持っている。また、「授業の振り返り時間を増やしたい」と考えており、学習の深化に対する意欲が高い。 ●定期考査に向けた学習の計画や実行に困難を感じる「自己調整」の課題に加え、スマートフォンの「使用時間帯を決めずに自由に使用する」生徒が多く、生活習慣のセルフコントロールに課題を抱える生徒が多い。	・定期考査に向け、2週間以上前から自らの課題に基づいた学習計画を立て、進捗状況を振り返りながら実行できる。 ・携帯・スマホ等の利用について、「時間帯を決めずに自由に使用する」状態を脱し、自らの生活をセルフコントロールできる。	・学習実態調査の結果を生徒自身に分析させ、担任が面談を通して「計画の立て方・修正の仕方」を具体的にアドバイスする。 ・勉強に不安を抱える生徒(特に1年生)に対し、各教科で具体的な予習・復習の仕方をモデル化して示す。			